

プロジェクト名: ものづくり未来プロジェクト

Make Things Future R&D Project

研究代表者 柿崎隆夫（機械工学科 教授）

目的（何のために作るのか. 具体的に）

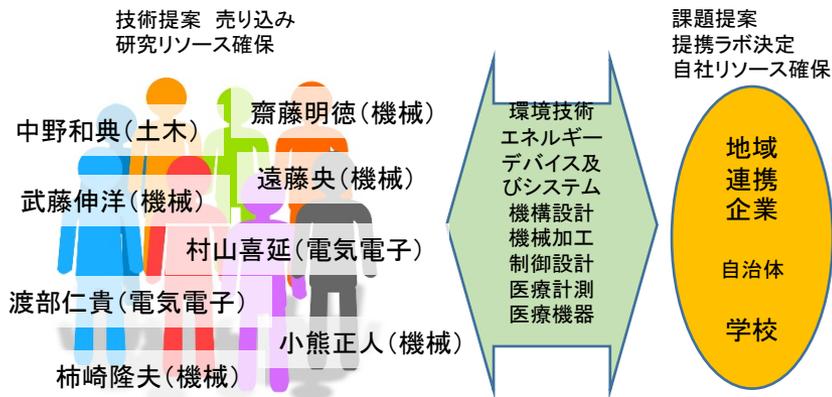
新素材からIoTそしてAIまで、工学部が抱える研究開発リソースを糾合して広く地域に公開し、課題の共有を通じ相互に歩みよることによって産業活性化に有効な持続的仕組みを構築する。具体的には高付加価値プロダクト開発と実用化をねらった共同研究、共同開発を現在の5倍とするべく目標を立て、これを追求する。

背景（意義、社会や技術との関わり）

震災以降、福島県の産業とりわけ製造業は再エネ機器や情報通信機械機器を中心に7兆円台規模に復活した。しかしIndustrie4.0に対抗する高付加価値型への脱皮は緒についたばかりで、国から地域への資金投下も十分な効果を上げてはならず、それに応えるべき地域企業と学術機関との関係は未だ脆弱なのが実態である。

推進体制

（学内、学外メンバとその連携と当面の分担など）



具体的な活動予定（この1年とその先）

第1期:

工学部研究会での出前紹介
産学官連携ほか媒体での紹介
郡山市産業博への共同出展
各種企業連携セミナーへの出前出講



第2期:

テクノポリスと共催する定期情報交換会
福島県産業振興課との連携基盤形成
新規事業テーマとの研究マッチング
共同研究テーマの個別すり合わせ



予定とマイルストーン

ここまでのゴール

H29.9

第1期

H30.3

第2期

H31.3

▲ 合同技術展望シンポ

▲ 共同研究企画発表